

## 3月臨時教育委員会議事録

平成27年3月24日（火）14：00～

### ○委員長

ただいまから、平成27年3月臨時教育委員会を開催します。よろしくお願いいたします。  
それでは、教育総務課長から、日程説明をお願いします。

### ○教育総務課長

本日審議いただく内容は、議案4件でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

### ○委員長

では議題に移ります。本日は署名を坂本委員と佐伯委員にお願いします。

### [公開]

議案第1号 平成27年度教育振興協約の締結について  
教育総務課参事

### ○委員長

それでは、議案第1号について、お願いします。

### ○教育総務課参事

議案第1号、平成27年度教育振興協約の締結についてです。この協約につきまして、この委員会での協議や、今年度3回開きました教育協働会議での意見を踏まえ、平成27年度に重点的に取り組むこととして、合計21の項目を記載しております。少し内容について簡単に触れさせていただきます。（1）①アですけれども、学校と地域と一緒に子どもを育てる体制づくりの推進ということで、新たに追加しておりますけれども、地域住民との連携による小中一貫教育を推進するために、中学校区で住民参画の協議会を設置して、小中9年間の系統性のあるカリキュラムを作成する市町村を支援する、としております。続いて④番ですけれども、土曜授業等の取組の推進ということで、高等学校におきまして協働会議でも意見がありましたけれども、実施校以外の生徒や教員の参加を認めるなど、学校の枠を越えて切磋琢磨できる環境作りに努めること、としております。⑤番では、県立高校の魅力づくりということで、全国からの生徒募集についても検討を進める、としております。⑥番、ふるさと教育の推進、ということを新たに追加しておりますが、地方創生の取組の重要性から、郷土鳥取に愛着と誇りを持った人材育成に取り組むということで、このふるさと教育の推進の項目を追加しております。⑧番、キャリア教育の充実。これも大切だということで、ここで体系的なキャリア教育推進計画を、すべての高校で作成することとしております。その支援に当たって、スーパーバイザーを新たに配置したり、キャリア

教育を支援する企業を「鳥取県キャリア教育推進協力企業」に認定するというような取組みも新たに行っていこうと考えております。⑨番のICT教育の活用推進ということで、来年は新たに民間企業・大学等で構成するコンソーシアムを設立することとしており、それによって授業におけるICTの効果的な活用を検討していくこととしております。更にこれも協働会議で意見が出ましたけれども、ICTを活用した教材やエキスパート教員の授業映像を配信・共有することで、県内の教員の「学んで授業を高めよう」につなげることであります。⑩番、これも追加で、教職員の多忙感解消ということで、平成26年度に倉吉西高でモデル的な取組みを行いましたので、来年度はこの成果を他の学校にも普及していこうというものでございます。続きまして⑪番、安心して学べる学校教育の推進ということで、ソーシャルスキルトレーニング等を活用するなどして、学級作り・人間関係作りの取り組みを一層推進していこうというものでございます。続いて⑫番の特別支援学校生徒の職場定着の推進ということで、特別支援学校に職場定着支援コーディネーターを新たに配置しまして、ジョブマッチングだとか就職した後のフォローアップについても力を入れていこうというものでございます。そして最後⑬番の近畿高等学校総合文化祭鳥取大会の開催ということで、生徒が中心となって運営して、障がいのある生徒も文化活動の喜びを分かち合うなど、県内各地で生徒同士の交流を拡大し、個々の文化活動の充実発展に取り組むということで、記載しております。この議案第1号につきましてご承認いただきましたら、本日3時半から、知事と調印式を行うこととしております。説明は以上です。

#### ○教育長

⑩番のところの「また」のところで、新たに2月議会の議論で、子どもの貧困対策ということで、事業としては知事部局の福祉事業が中心になりますけれども、低所得のひとり親家庭の子どもの自立の機会の確保といったところで、そうした子どもさんがある場所に集めて学習の機会を提供するというようなことも積極的に進めていく、と。委員長が当初から言っておられた、鳥取県の優位性を活かしたような教育ということで、なかなか盛り込むのが難しかったんですけども、①イの「授業改革」の辺りに、少人数学級を基礎として主体的な学びをやっていこう、ということ、更には、全国に誇る県立図書館に、バックアップの役割を果してもらおうということでもあります。②のところで、「豊かな自然を活かして遊び切る子どもの育成」では、幼・保・小の連携カリキュラムを広めていきたいと思いますところ、それらしい文言を入れさせていただいています。また、⑬のところの「ソーシャルスキルトレーニング等」と書いておりますけれども、この「等」の中に、言っておられた演劇も含めて取組んでいきたいなと思っています。

#### ○委員長

⑩番の教職員の多忙感を解消というところで「倉吉西高での実践」ということですが、どんなことを展開することになるのでしょうか。

#### ○教育総務課長

倉吉西高の方で今回、具体的に取り組んでいただいている内容、例えば、整理整頓の関係で、個人個人で持っているファイルを、一元的に必ず教頭の後ろに持って行って、探す時間等を少なくするとか、一つ一つはあまり大きな話ではないんですけど、会の時間を5分でも短くするように最大1時間に設定してなど、短い時間の積み上げの中で、時間を20分でも30分でも作って、それを子どもたちに向かう時間に使っていただくという形で展開していきたいと。現に取り組んでいる倉吉西高で始めたことを、まずは各校でも始めていただいて、その中から次の取組みを出して少しずつ広げていければと思っています。

#### ○教育長

民間のコンサルタントの方に入ってもらって、教員というのは民間の企業に比べると、一人一人の裁量幅が広いということで、それがいい意味に出るところと、悪い意味に出るところとあって、情報も一人で握るといことがあって、その辺りの共有をもう少し上手にすることによって、組織的に動いていける、そこにつなげると皆の力が合わさって、大きな力につながっていくのではないかといいところなんです。いろんなことをチームでやっていくということも、改善に合わせて声をあげて進めていきたいなと思っています。体罰なんかその場で面と向かって、職員が一人で解決しようとするんで、思わず手が出てしまったり強い言葉に出てしまったりということですので、冷静に一回引き取って、この子をどうしていくかということチームで考えていくというようなことも、必要になってくるんじゃないかなと。すごく責任感の強い方が多いので、目の前で何とかその場で解決しないといけないという、その場の指導も必要だと思いますけれど、そこで力で収めてしまおうというようなことにつながっては、またちょっと逆効果になるのじゃないかと。

#### ○委員長

アの学校と地域と一緒に子どもを育てる体制作りということで、9年間の系統性のあるカリキュラムを作成する市町村というのは、具体的にどこでしょう。

#### ○（事務局）

鳥取市福部町と日南町です。

#### ○委員長

9年間でどのくらい変わるのでしょうか。系統性のあるカリキュラムというのと、9年間で、今までになかったことができるんですか。

#### ○教育次長

湖南学園をイメージしていただくと、6年3年が、4年3年2年にまず区分されますし、学力調査の結果だったらかなりいい結果が増えています。ただ、課題としては、6年生が小学校のときはリーダーシップが取れてたんだけど、その意識が薄くなっている。小学校での人間関係が中1ギャップはなくなったけど、小学校の中学年ぐらいの人間関係がそ

のままいっちゃうと、課題もあることは確かにあるんですけど、湖南学園の場合は、いい方が出ているんじゃないかと思います。少ない人数で細かい手当てができて、中学校教員が小学生に関わる、小学校教員が中学生に関わるということも、大人側のいい効果になると聞いております。

○委員

ある程度クラス数があれば、クラス換えによって人間関係が変わっていきやすけれども、日南町とかは単学級ですか。それだと、固定してしまうんですね。そこがちょっと難しいところだと思います。

○教育次長

鳥取市福部町もたぶんそれに近いと思います。

○委員長

それも前提とせざるを得ないことですよ。それでも、外部の関係者の力を借りながら、本人や周りが気づかない良さや発見をどれだけ作っていけるかだと思います。

○委員

福部とか日南とかいうところも、今の6・3ではないような区割りみたいなのをするんですか。

○教育次長

日南は、6・3じゃないことを既にお考えですが、福部の方はそこまではまだ決めかねている段階だと思います。検討中の段階のようです。

○委員長

福部は幼稚園も入るんですね。そうすると中学が3年、小学校は6年、その前は幼稚園で3年程度だとすると、どこから含めて、ということになるんですか。

○教育次長

年長ですね。ただ、年長から取り入れようとするれば、特区の申請が必要になると思います。そこまでは、手続きしていないと思われます。

○小中学校課長

たぶん、来年度1年かけて、再来年度の一貫校立ち上げをにらんでいる話だと思うので。その中で、先程ありました「特例方針にする」とかいうものも検討されていくのかと。

○委員長

そうすると、今の年長が1年生ということになるわけですか。

○教育次長

はい。0年生という声も出ていますが、もしされれば、先取りの形だと思います。

○委員長

それはおもしろい取組ですね。

すみません。福部、日南と、あとどこだったでしょう。

○小中学校課長

伯耆町です。この事業は、今確定しているのはまだ伯耆町だけでして、少し情報収集しているところです。実際のところ、カリキュラムの作成も手を付けておられるようです。あそこは町としてやっておられるような感じで、カリキュラムを策定される方も前の西部教育局の関係者が入っておられて、実際に手がけておられることを聞いています。伯耆町の取組みはモデルにはなるだろうと思います。

○委員長

福部と日南と、伯耆が二つだとすると、四つの中学校区ということになるんですか。

○小中学校課長

日南は、町教委としてはやらないようなことも聞いていて、ちょっと話が変わっています。日南は少し難しいかもしれません。

○次長

広い意味でいえば、その事業のことが想定はしているけれども、当然地域住民も参画してされるでしょうし、小中一貫教育という意味では、全く外れるものではないだろうというところも。

○委員長

小学校で教えることは小学校の中でやらなければいけないとか、小学校の6年生のときに中学校の内容を教えるということはできるんですか。

○小中学校課長

それはできません。ただ、中3のときに、例えば、小学校の教員が「中学校ではこういうことをやっていくんだ」ということで、小学校で学ぶことが、中学校のこのところにつながるということを知った上で、小学校は小学校、中学校は中学校の子どもたちへの教育に当たるということでは、随分違うと思います。そのところを一貫教育ということの一番メリットです。例えば、小学校が複数あれば、どの小学校も「そこは、中学校はこうなるんだ」ということで、取組みの中で向かっていく話になるので、小学校も横並びで、ある程度、行っていくことが揃ってくるということになると。

○委員長

逆に言うと、それは当たり前じゃないかと思うんですよね。義務教育だから小学校でも習ったら、中学校でもあれするわけだから、そうすると「そういうことができます」ということは、やってない学校の方が多いというわけになるんですよね。そういうことを考えて教えていないという先生の方が多いじゃないかということになるわけですよね。ひょっとすると、それ問題じゃないですか。

○小中学校課長

今までは結局、その学校で完結すればいいということですので、別に小学校教員が必ず中学校の学習指導要領をすべて知ってなければいけないかということではないです。

○委員長

知っておいてほしいですけども。

○委員

小学校の中では1年から6年までの授業で「どういう流れでつながっていくか、ここがここになる」ということをきちっと把握するといったら、それでも大変ですよ。それで、じゃあ中学校のどこにどういうふうにつながっていくかと、分からない教員も多いと思います。何年生にどんな内容が出てくるということは。

○教育次長

何年か前から行われているのは、中学校に小学校高学年の各教科の教科書を置いて、自分が中学生の授業に出るときに小学校の教科書を見ることで教材研究するということは、それぞれの学校で工夫されています。当然、委員長がおっしゃるように、つながらないといけないわけですから。

○委員長

もちろん学びだから、普通にやればつながるんでしょうけど。そこを少し親切にやっていると、分かる子どもが増えるということになるんでしょうか。

○小中学校課長

あと、北中校区も、小学校から中3まで、こういう一つの、どういうところを押さえてやっていかなければいけないか、という教科ごとの押さえ所を、実際に作っておられます。これは、湖南学園で、校長先生が北中の方にも持っていかれて、実際に今もやっておられるということです。

○委員長

住民参画というのが、実際どれぐらい機能するんだろうかというのが、気になるところなんです、実際はどうですか。

○教育次長

コミュニティースクールに関わる話ですか。

○委員長

いや、中学校区で「住民参画での協議会を設置して」というところ。考え方としてはすごくいいことだと思うんですけども、私の知る限りだと、なかなかそこが機能しないんじゃないかと。事実上、やはり学校任せになっちゃって、「私は学校のやることは応援しますけえ」と言って終わるような感じじゃないかと思うんですよね。それはそれでいいじゃないか、それはそれでありがたい話なんだけれども、もう一步地域の人たちを巻き込んでいくために、ファシリテーションというか、関わり方があれば、それに越したことはないんじゃないかなと思うんですよね。

○教育次長

前任校ではコミュニティースクールではなくて、コミュニティースクールもどきだったんですけど、年間に3回、協議会をしていました。まず、公民館の代表ですとか、小学校中学校関係者の5・6人だったと思いますが、1回目は「学校をこうやって動かしていきたい」という方針や重点を説明して、2回目は中間評価、自己評価ですけども、「ここまではできたけど、ここはまだ足りていない」という話をして、3回目は1年間の取組みについて、また自己評価を説明して、それぞれの回でのご意見をいただくというやり方をやっていたので、「もうちょっと、こうしてほしい」ということは当然出ておりましたし、あれは良かったなあと思います。あと、本県の例じゃないですけど、コミュニティースクールの取組みを読むと、保護者からのクレームが格段に減ったという報告が、全国の例ではあちこちであって、やっぱり協議会のメンバーの方々だと思いますが、ワンクッション吸収してくださっているんじゃないかなと。「学校はこういうつもりだから、文句言わんでもええよ」というやり取りがあるんじゃないかなと。そういう意味では地域の意見が聞けているというか、つながっていると思います。

○委員長

このあいだお聞きした、ある小学校の例というのは、おそらくそういう部分でのボタンの掛け違いということなのかなと思うんですけどね。

○教育次長

おそらく、校長先生に直接申し出ていたものと思います。

○委員長

だから、そこら辺が、うまい形での住民参加の仕方みたいなものを、うまく、自分たちで決めてもらえばいいことなんだけれども、いい形を作っていくというような、我々県教委の関わり方というのはあるのかなと思うんですね。

○教育長

学校支援ボランティアに、たくさんの人になっていただいている、それに伴って地域が支援本部みたいな協議会的なものもできたりしていますけれども、どっちかというと周辺部分でいろいろ手伝っていただいて、たとえば登下校の見守りだとか、花壇の世話だとか、学校の中の学びの世界に、なかなか住民の方に入ってもらえてないという部分が大きいだろうなど。その辺の垣根がだんだん低くなって、たとえば土曜の活動を一緒にしてもらおうだとか、そういうところに地域の住民の方に参画してもらえるようになると、またちょっと違った姿になってくるのかなと思います。この間、ちょっと拝見した日南は、土曜授業のときに小学校の1年生から4年生ぐらいまでは学年を取っ払って、地域の方に入ってきてもらって、あれはオリエンテーリングかなんかをやっていたと思います。この中で住民の方も、こういう子どもに育てていくという共有を図りつつ取り組んでいただくと「地域の子どもたちは自分たちで育てないかん」という意識も高まっていったりするのかなと思います。理想形としてですが。

○委員長

了解しました。27年度の協約については、これで決定することでもいいでしょうか。では、議案として決定いたします

[非公開]

議案第2号 公立学校教職員の懲戒処分について  
高等学校課長

[非公開]

議案第3号 公立学校教職員の懲戒処分について  
特別支援教育課長

[非公開]

議案第4号 公立学校教職員の懲戒処分について  
特別支援教育課長

○委員長

なにか他にございませんでしょうか。それでは本日の臨時教育委員会は閉会とします。  
次回は、4月17日金曜日に、定例の教育委員会を開催したいと思います。では、本日の  
日程を終了します。